

「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ12号

2018年3月



ルリタテハ

目次

1. 2018年活動日程 2
2. ムシプロだより 3
3. 自然の楽しみ方（冬・早春） 5
4. 事務局より 6
- 今月の表紙 6

1. 2018年活動日程

2018年の活動日程が、確定しました。2018年は、5回行います。
うち2回（6月、7月）は宿泊を伴う活動になります。
今年もフィールド整備に汗を流し、日本の自然を愉しみましょう。

<取り組み>

- ① スタッフ体験を実施します。各回の活動案内の時に募集します。
- ② フィールドの整備（草取り等）の時間を多くとります。
※雑草が勢いを増す6月、7月に宿泊をして作業の割合を多くしました。
- ③ 7月に夏の生き物観察を「民宿 庄屋」の雑木林で行います。また、6月には、雑木林の下草刈りも実施します。
※2017年7月に民宿 庄屋に宿泊した時に「歳をとり、下草刈りが大変なので除草剤をまいた。」と聞き、当活動で下草刈りのお手伝いすることにしました。

<活動の日程及び活動の概要>

活動日	作業	観察・講習	募集人数
4月7日(土)	・バタフライガーデンの整備 ・第二ビオトープ整備	早春の雑木林(カタクリの花など)	20名
6月2日(土)~3日(日)	・バタフライガーデンの整備(草取り) ・ビオトープの整備 ・雑木林の整備(庄屋)	・モリアオガエル、水辺の生き物	20名
7月14日(土)~15日(日) (庄屋泊)	・バタフライガーデンの整備(花がらとり) ・ビオトープの整備	雑木林のムシ(庄屋)	15名
9月22日(土)	・菜の花、レンゲの種まき ・ビオトープの整備	・赤トンボ、ビオトープの生き物 ・日本ミツバチの蜂蜜採集	20名
11月24日(土)	・木の葉さらい ・エコストープを使った昼食づくり	冬越しのムシ(クワガタムシの幼虫)	20名

※活動案内は、活動日の一か月前に行います。

民宿 庄屋の様子



古民家を改装した宿泊棟



コナラを中心とした雑木林



日本ミツバチの巣箱

※民宿 庄屋は、くまの木小学校から、車で約5分のところにあります。

2. ムシプロだより

和田 唯さん・涼佑さんの近況



ムシプロに参加して5年目になります。

宇都宮市在住の和田唯です。

現在、単身赴任中（会社の各生産拠点へ2017年4月～2019年3月）です。

家族構成は、長男（涼佑：7歳）・長女（紗佳：4歳）・次男（亘平：2歳）

・3男（匠平：2歳）・妻（幸子：41歳）・私（唯：50歳）の6人です。

ムシプロ参加のきっかけは、子供と参加出来き、自然を体感するイベントを探している中で、出会いました。

涼佑3歳の時が最初で、日程が合えば、参加しています。

スタッフの皆さんから伝わる‘いきもの好き’ オーラ（メラメラ）を感じながら、参加させてもらっています。

子供との時間、ワクワクした好奇心旺盛な顔を楽しみに、参加しています。

残念ながら、涼佑（長男）は、虫が苦手なようで、カブトムシ/コクワガタをもらって、自宅（宇都宮市）に戻ったとき、虫が得意でない妻と虫のお世話でバトルになりました。

妻の話：家族で唯一虫に触れるパパが『俺は世話しない。もらってきた涼佑がやりなさい！！』と言い始め、

当然、世話をできない涼佑に任せられるはずもなく、私が世話の半分を担当することに。

虫を持って待つ係が涼佑。虫カゴをきれいにする係が私。毎日ワーワーキャーキャー言いながらなんとか世話をし、餌は二人で楽しみながらあげていました。

虫が嫌いではあったものの、毎日の日課となっていたので、息絶えたときは悲しく、ボーゼンとする日々。



① 家族写真

紗佳(長女)/幸子(妻)/涼佑(長男)匠平/亘平(3男/次男)



② カブトムシ君

飼育に苦戦した



③ 蛾

マンションに迷い込んだ

紗佳（長女）は、山道を楽しそうにサクサクと進む姿、幼虫を触っても平気な顔から、今後が楽しみ！

双子は、好き嫌いが不明（未知数）、今後が楽しみ！ただし 夫婦参加でないと4人は難しい！

涼佑（長男）は、虫を触ることが苦手だが、『虫のこと、植物のこと 勉強したり、教えてもらえるので好き！』と言って喜んで参加しているので、今後の成長に期待！子供たちをサポートしなから、家族仲良く楽しみたいと思います。

家族の出来事が中心になりましたが、ムシプロの今後のプログラムを楽しみにしています。

自然のありがたさを感じつつ、気分転換にもなるので、都合を合わせて参加させていただきます。

今まで事故なく安全に活動が進められているのは、西野さんをはじめ、スタッフ皆さまのご尽力の賜物だと思います。

今後もムシプロの楽しい活動が継続出来るように、「何らかの形で参画する」「仲間を増やす」等の事があれば協力したいと思います。



④幼虫片手に笑顔

紗佳(長女:4歳)



⑤トンボのランデブー



⑥城址公園(宇都宮市)

近くの公園

(写真・文 和田 唯)

3. 自然の楽しみ方（冬・早春）

● 鳥たちの冬：冬を過ごす知恵、混群をつくる。

冬になるとムシたちの姿をほとんど見かけなくなる。その代わりに木々が葉を落としたおかげで鳥の姿が目につくようになる。冬になると日本に渡ってくるもの、山から里に降りてくるものなど季節限定の鳥たちを見るチャンスである。そして、行動にも季節限定のものがある。それが「混群」である。

「混群」は、耳慣れない言葉である。種類の異なる鳥（エナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラなど）が10～30羽ほどの群れを作って行動する様子を「混群」と呼んでいるのだ。群れを作る理由として、天敵から身を守りやすくなる、餌を取りやすくなるなどと言われているが、春になると解散してしまう。本当のところは、鳥に聞いてみないとわからない（笑）。

混群に出会うととても賑やかで、見ていて楽しい。さらに混群に囲まれたときは、自分も群れの一員になった錯覚に陥ってしまう。

私の家の近くでは、「エナガを」中心とするものと「メジロ」を中心とするものが見られる。

<p>エナガを中心とした混群</p>  <p>枝にぶら下がったりして動き回ります</p> <p>エナガ(約20羽)</p>	<p>メジロを中心とした混群</p>  <p>背の高い枯草の原っぱからカサカサと音が聞こえ始めた。風で揺れている音とは明らかに違っていた。やがて、草の揺れる音が近づいてきて枯草の中に無数の鳥の影が見え始めた。</p> <p>メジロ(約30羽)</p>
 <p>黙々と木を突いてムシを探します</p> <p>コゲラ(2羽)</p>	 <p>エナガ(約10羽)</p>
 <p>コゲラの様子を見ていて、コゲラが去るとそこへ行きムシを探していました</p> <p>メジロ(2羽)</p>	 <p>シジュウカラ(4羽)</p>

コゲラが、木を突いた場所でもムシを探すメジロ

(写真・文 西野 孝法)

4. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年3月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：harukan@ac.auone-net.jp

今月の表紙 ルリタテハ



※左側の個体と右側の個体では、瑠璃色の線の太さが違うよ、わかるかな？

タテハチョウの中で最も好きな蝶である。名前の由来となっている瑠璃色の模様は翅全体からすると僅かな面積であるが、やけに目立つ。翅の裏側は、真っ黒なので飛んでいると黒、瑠璃色、黒、瑠璃色といった具合に瑠璃色がフラッシュのように目に飛び込んでくる。この現象に刺激されるのか？このチョウを見ると非常に興奮する。小学生の時初めて手にしたとき、あまりの嬉しさに全く眠れなかった。今でもこの気持ちは変わっていない。食草は、ユリ科の「サルトリイバラ」「ホトトギス」ということで、庭に「ホトトギス」を植えて訪れてくれるのを待って15年になる。どこで道草しているのだろうか？

今年は、バナナトラップなどで誘ってみようと思う。

(写真・文 西野 孝法)



サルトリイバラで見つけた幼虫